

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572306215		
法人名	有限会社ヘルスケア悠愛		
事業所名	グループホームゆうあい		
所在地	秋田県男鹿市弘戸字渡部114番地3		
自己評価作成日	令和2年2月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和2年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは創業者が自らの福祉理念を地域に還元することを目的として開設された。静かな住宅地にあり、民家を改修した建物は一見高齢者ホームとはわからないくらいで近所になじんでいる。「だれでも、いつでも、気軽に、みんなと共に、助け合い、心豊かに、安心して生活できる」ホームを目指して、職員がみな努力している、地域住民との交流の取組みとして、カラオケ大会の開催や、地域の行事、祭典の参加などを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム主催のカラオケ大会では、利用者や住民参加者の好みやカラオケの機械操作に精通した住民ボランティアが、司会進行まで全てを毎回協力してくれ、楽しいひと時を演出している。地元中学校や小学校、保育園との交流も積極的に受けており、町内のお祭りや、敬老会、忘年会にも参加しており、忘年会では利用者と共に恒例のたまこ餅を味わうとのこと。6人という小規模なホームであるが、利用者一人ひとりに目が行き届き、声掛けが行き届いているのがこのホームの強みである。認知症に関する相談に訪れる住民に対応しており、今後、相談機能を更に発揮できるよう取り組みたいと管理者は語る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は掲げられているが、個々の職員への浸透が十分ではない。今後、方向性は一緒でもっと平易な言葉に改めることを検討している。	重要事項説明書に企業理念及び9項目に及ぶ認知症グループホーム理念が掲げられている。食堂の壁に「明るく楽しく元気よく 自分でできることは自分で できないことは助け合う」との利用者とスタッフが共に考え作成した標語が掲示されており、毎朝共に唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のかたを招いて不定期にカラオケ大会を開催している。利用者・職員は祭典など地域の行事に参加している。小中学校の生徒たちの社会体験の受け入れをしている。	ホーム主催のカラオケ大会では、利用者や住民参加者の好みやカラオケの機械操作に精通した住民ボランティアが、司会進行まで全てを毎回協力してくれ、楽しいひと時を演出している。地元中学校や小学校、保育園との交流も積極的に受け入れている。町内のお祭りや、敬老会、忘年会にも参加しており、忘年会では利用者と共に恒例のだまこ餅を味わうとのこと。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域住民から認知症に関する相談等を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	諸事情により、運営推進会議の開催はじゅうぶんではない。2か月に一度の定期開催を目指して、調整中である。	地区民生委員及び地域住民代表として、ボランティア活動者・郵便局員・薬局職員が委員として参加している。年に一度しか開催出来ておらず、現在も2ヶ月に一度の開催に至っていない現状であり、2ヶ月に一度の定期開催を検討中である。	2ヶ月に一度の定期開催を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談のため市役所庁舎を不定期に訪問している。	関係法令等の解釈が不明な時は、市担当者を訪問しており、質問し詳細に説明してもらっている。ホームの運営について、様々なアドバイスを受け、助けられているとのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない。サイドレール等福祉用具は適切に使用している。身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会を定期開催している。	「身体拘束ゼロ作戦の手引き・身体拘束防止」を基にスタッフへ丁寧に説明し、内部研修を実施している。外部研修へスタッフを派遣し、伝達研修でその徹底を図っている。ホームの身体拘束排除宣言が制定され、「身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会」が定期的で開催されていることが議事録から確認できた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に注意をはらい防止に努めている。高齢者虐待防止関連法についての学習はじゅうぶんではない		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が制度の理解と活用に努めている。職員全体の学習の機会はじゅうぶんではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、納得していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見については、事業所として検討を行い、速やかに対応をしている。現在、苦情受付箱は設置していない。	前回の外部評価結果を踏まえ、苦情や意見を言いやすい環境を更に整えると共に、意見箱に変わるアイデアを模索中である。誕生会に家族を招待することで、関係性を密にする取り組みを実施している。家族等に対する更なる情報提供の一環として、現在、ホームページの立ち上げを具体的に検討中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、代表者や管理者が職員からの意見や情報を受け止めて、運営に反映させている。	チームワークがとて素晴らしいと、日常業務の中で、運営に関する意見をスタッフがいつでも気兼ねなく要望出来る環境にある。特に利用者に関する要望は日常茶飯事であり、必要に応じ記録し共有出来るよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所として、経営体力の範囲内で職場環境・条件の整備を行っている。とくに子育てをしている者、家庭で介護をしている者の勤務を柔軟に対応し、休暇の取得を推進し、また時間外勤務をなるべくしない環境づくりをしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所として、職員のシフト、人員基準への対応におかれて可能な範囲で、研修を受ける機会や資格試験受験のための、休暇や出張扱いを行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内と周辺市町村エリアのグループホーム連絡会に入会しており、合同の交流会や勉強会に参加している。			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期対応は、計画作成担当者を中心に、本人との信頼関係・安心を確保するようにつとめている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期対応は、計画作成担当者ならびに介護職員が、家族等との信頼関係・安心を確保するようにつとめている。			
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やお茶を一緒に楽しんだり、共に暮らす関係の構築に、じゅうぶん留意している。			
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を深めるよう十分に留意している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への一時帰宅の送迎、本人の希望する商店での買い物等への付き添い、本人希望の医療機関へ通院する等、十分に留意して支援している。	入居することで入居前のかかりつけ医院が遠方となったが、本人の強い希望を察した結果ホームで送迎している。本人が昔よく利用していた秋田市のデパートへ出かけたが、昔とは違うという反応があったため、近くのデパートへ連れて行くことで満足したとのこと。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	閉ざされた個室にこもることなく、みんなが交流できるホームにすることで支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、近隣の住民におかれては、相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が一人ひとりの思いや希望等を日常生活の中でくみ取り、支援に生かしている。	預り金管理規程を策定しており、小遣いで思い思いの買い物が楽しめるよう取り組んでいる。本人の好みや出来ることを見極めることで、出来る範囲で個々の役割分担をし、手伝ってもらうよう配慮している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との日常会話、家族等との面談などの機会ですら把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の行動記録から、また本人との日常会話、家族等との面談などの機会ですら把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本位の支援が行われている。チームでの介護計画作成にじゅうぶんでない点がある。	本人、家族の要望はもちろんのこと、記録や日常業務の多様な機会を利用して、スタッフの気づきやアイデアを介護計画に反映させるよう取り組んでいる。	利用者個々への気づきやアイデアについて、日常業務の多様な機会を利用し、話し合いを実施しているので、議事録として工夫し記録するよう期待します。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録と職員間の情報の共有と実践はじゅうぶんにできている。介護計画の見直しには活かしきれていない。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フォーマル・インフォーマルな資源を把握して、十分に留意している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族等が希望する場合、かかりつけ医、かかりつけ薬局の利用を支援している。	市内の内科医院・歯科クリニック・秋田市内の病院を協力医療機関として連携している。入居前のかかりつけ医を入居後も利用することを基本としているが、本人家族の要望を優先している。かかりつけ医が遠方となり、ホームから通院しやすい医療機関を希望する場合は紹介している。ホームのかかりつけ薬局についても同様である。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護職はいない。機会があれば訪問の看護師等と適切に共同している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報の提供や、退院前のカンファレンスに参加するなど、十分に留意している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でできることを説明して支援している。終末期は家族等、医療従事者や福祉サービス等と共同するように留意している。	入居時に運営規程及び重要事項説明書の「病院等に入院する必要が生じた場合」に基づき説明している。ホームとしては看取りについては態勢上困難であるとのこと。長期入院が見込まれた時点で、家族と協議するとのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の職員は救命講習の受講済みであるが、今後も全職員に浸透させるよう機会を増やしていきたい。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難計画書の作成、掲示および避難訓練を実施し、地域住民・地域の消防団との交流も行っている。	前回の外部評価結果を踏まえ、震災等にも対応した消防計画、非常対策計画を再編成し、閲覧できるよう改善している。近隣の商店駐車場や保育園、小学校をホームの避難先として協力を得ている。食料の備蓄は約2週間分をストックしているとのことで、確認させていただいた。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	すべての職員が、利用者の尊厳やプライバシーに配慮している。建物が前時代的でプライバシーには優れていないので、職員が常に配慮している。	民家改修型ホームであり、居室間が襖による間仕切りもあり、ホームとしては様々な工夫を施し対応している現状にある。換気や掃除の際に間仕切りである襖を開放する関係上、トラブルに発展しないよう配慮している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すべての職員が、十分に留意している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すべての職員が、十分に留意している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ふだんの整容は職員が対応し、その人らしい身だしなみ・おしゃれに十分に留意している。美容室等へ通う支援や、訪問にての理容も行っている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感や地域の料理などを意識して、一人ひとりに応じて食事を楽しめる支援をしている。一緒に準備・食事・片付けをしている。	山菜を利用者と共に採りに出かけては味覚を楽しんでいる。秋は果物、きのこ、冬はハタハタ、季節の味覚を味わえるようホーム長が気配りしている。誕生会には彩を工夫し、目でも楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	すべての職員が、常に状況の把握に努めて、支援している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	すべての職員が、本人の力に応じた口腔管理に努めている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行動の記録を検討して、すべての職員が自立にむけた排泄の支援を行っている。	排泄チェック票を駆使し、1ヶ月分を見れるよう工夫することで、利用者個々の傾向を把握し、それぞれの排泄の自立に向けた支援を心掛けている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の記録・行動の記録を検討して、すべての職員が便秘の予防と対応の支援を行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	小規模な事業所であり、利用者主体の希望のタイミングで入浴を提供することは困難である。現在は曜日を決めて週二回の入浴を、利用者の心身の状態や気分に配慮して実施している。	火曜と金曜の午前に入浴を実施している。それ以外の日は毎日清拭を行っている。民家改修型であり、脱衣室は冬は寒くないよう、夏は暑すぎないように心配りをしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	すべての職員が、十分に留意している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師と相談して、十分に留意している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の会の司会者など、役割を考えて任せたりしている。歌や踊りが好きな利用者が多く、歌唱などの楽しみ事が多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	300メートル程度離れた土地に、庭・畑があり土いじりを楽しめる。車いすの利用者が増えてきたため、一斉の外出が難しいが、利用者の要望をうかがい、散歩や外食など工夫して行っている。	外出要望には即対応するようしており、そのことが徘徊防止につながっているとのこと。比較的交通量の多いメイン道路に面しており、日中は玄関に施錠しておらず、飛び出さないようスタッフが細心の注意を払っている。6名と少ない人数なので車2台で、大湯村の花見、寒風山等へ全員が一緒にドライブを楽しむことができる。道の駅のソフトクリームが人気である。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力によって、お金を月極めで渡したり、買い物の際に渡したりして、使えるように支援している。隣が個人商店なので毎日のように買い物を楽しんでいる。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	すべての職員が、十分に留意している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古い民家を改装したホームで、予算の都合もあり、あらゆる点で十分であるとは言えないが、清掃に心がける、安全対策をするなど、施設の状況内で、常に努力している。	日中は、ほぼ全利用者が食堂で過ごしており、築後年数が経過しているが、特に掃除には力を入れている。居間の壁に掃除等のスケジュールが確認できた。不快な臭い等は一切感じられない。計画を立て、ホーム内の機材を順次新しいものに交換している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いホームで、共用空間は十分であるとは言えないが、施設の状況内でソファを設置するなど、常に努力している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	すべての職員が、十分に留意している。使い慣れた家具を持ち込み心地良く過ごすことができるようにしている。	孫の写真を飾っている方が多い。基本的にペットや寝具は持ち込みであるが、必要に応じ電動ベットはホームで準備すること。リネンの洗濯はホームで行っている。懐かしい和式の畳部屋である。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の状況内で、できるだけ自立した生活ができるように、すべての職員が十分に留意している。		